

吾孀箏字彙全

特41

745

256

183

074440-000-3

特41-745

吾孀箏譜

山田 斗養一/作

M43

CEI-1698



新 版

山田檢校作

吾壙琴譜

上

東言書肆

類

新

特41
745

序



吾東方。昇平之和希。四隅。黎
民鼓腹。以飽於治世之樂矣。當
是時也。山田檢校。斗養一者。以
箏曲鳴于海內。夙等古筑。紫
箏也。精志研膈。採擷。取捨。以

序



吾東方

昇平之和希四隅

民鼓腹

以飽於治世之樂矣當

是時也

山田撿校斗養一者以

箏曲鳴于海內。夙等古筑紫

等也。精志研膈。採擷取捨。以



製新曲數闋。將傳同社矣。名
謂吾孺等曲焉。而其曲也。原本
雅樂。傷及豔。舞之操。不徐不疾。
自多不言之妙也。而使聽者。其
樂融之。曳之。積日。溫懷如冰
泮然。而遂為一家。可謂泮然

獨立者也。嗚呼。師之績。洋洋
乎大哉。而其曲數。凡及三十有餘。
生彩。有光彩。粲然猶玄圃積
玉也。親聽其曲者。相共請求。其譜
不徒焉。於是乎。輯以上諸李
束。為一小冊。將使人免謄寫之

勞也。且深閨婦女子。以之著巾箱。則為朝暮唱曲之便耶。而多其譜。則曲亦傳於世。而使譜與曲兩相持。而千載之後。不盡無朽。無乃山田氏之真面目乎。特成而叙之。覽者察諸。

文化己巳年秋七月

重元房吉謹識



目次

弓八幡

布袋

夏やせ

めづらあわせ

あまがらす

くねねあそび

あふぐりれ

竹いさご

春官曲

四季の艶

山橋

かきめくら

相生

曲あ

あづかり

夏

ほろぎん

ふれ玉づり

あづきの花

あけがらみ

あおみ

蓬萊

あまの峰

あまの景

奈須聖

住吉

ふれ玉橋曲

あけがらみ

江の崎曲

四季の段

小督曲

七恨歌曲

葵上

熊野

八重垣

追加

山登檢校作

あふらの奥 春日指

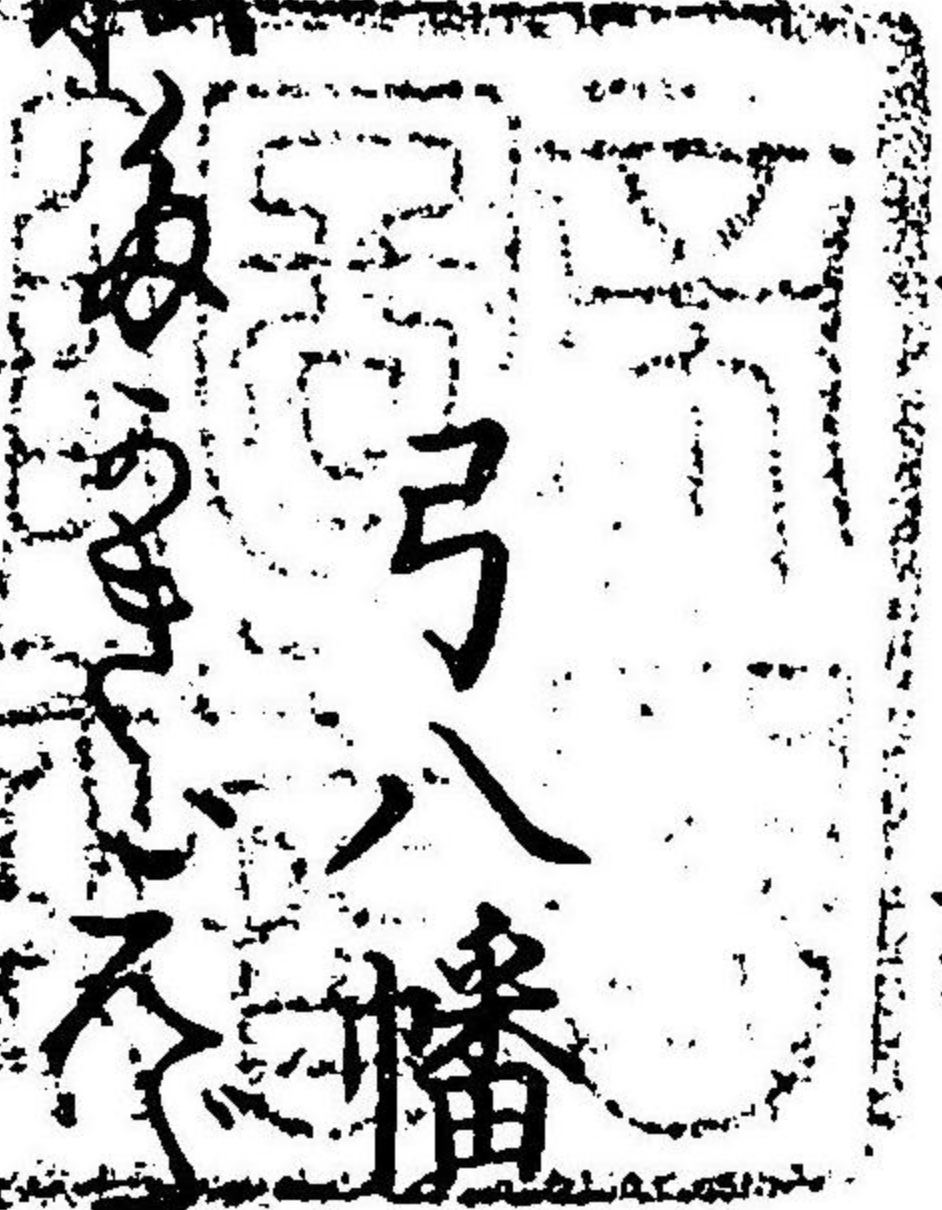
初若菜

糸の志 西行

手まり

新七草 かな

吾孀箏譜



山田檢校斗養一作

松の葉のいろはのなみのみねかきも
ぬきけり久かき秋月のかつら乃男山
のあはれはかきいふまはれん君ばんせ
いのあはれはあはれあはれあはれあはれ

希袋

敬啟者
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

夏子

敬啟者
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

なんびくのにおもくたは、ふたねいんかい

光るあまのこ

はまーあれが、まて、なほ、あまー意家、あま
あま、なほ、まて、あま、あま、あま、あま
ま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま

あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま

あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま
あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま、あま

たすいんむわーあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん

たすいんむわん

たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん

たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん

たすいんむわん

たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん
たすいんむわんあはるるさあにんせふん

たふしとていふはたふしはひしるふしとていふは
かたふしとていふはたふしはひしるふしとていふは
まじりたる神はたふしはひしるふしとていふは
あまのついでにたふしはひしるふしとていふは
だてたふしはひしるふしとていふは
たふしはひしるふしとていふは
たふしはひしるふしとていふは
たふしはひしるふしとていふは

かきまひ月たかつらをぶらりり

竹のこゝろ

たふしはひしるふしとていふは
あまのついでにたふしはひしるふしとていふは
まじりたる神はたふしはひしるふしとていふは
あまのついでにたふしはひしるふしとていふは
だてたふしはひしるふしとていふは
たふしはひしるふしとていふは
たふしはひしるふしとていふは
たふしはひしるふしとていふは

春宮曲

この世をよぢるもよ極の花の香ももよ
はゆの玉なるよあまのかんざしは月夜
乃玉くこやのまじりぬ袖かよのやまのにおり
ものへ梅よぼしんよ名もかたむすぶとあそびに
まよもあづまらだてのまよもやをいさ
くもく考がづるおちよそむいふまよもさあ
かありふよよのくみまよのこもまよもも風乃

さむしきまげと光るよあつきら君のたまもの
かたむくこよふふおちよもよもつまよも

四季の艶

まよもよむもたぢりあまのぢのよ先よ
こぼしよなるの絲もこつりあけく卵の艶乃
衣やうさきき舟入乃あまゆくあいのたまよ
ほあまやちりやれよの月屋花のよせの君
まねくあそびぢちづのちだあまよむさの

花のなごころをいかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに

山梅

花のなごころをいかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに

花のなごころをいかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに

山梅

花のなごころをいかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに
たしなむるにふりていかにしむるに

Handwritten musical notation on a five-line staff, consisting of a series of rhythmic and melodic lines.

和歌

Handwritten musical notation on a five-line staff, continuing the piece with various rhythmic patterns.

Handwritten musical notation on a five-line staff, showing a continuation of the melody.

曲水

Handwritten musical notation on a five-line staff, concluding the piece with a final melodic phrase.

新あつ月夜にちかすはるのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか

花妻

あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか

あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか

夏

あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか
あつきのひかりにさかすかのさかすか

Handwritten text in a cursive script, likely a page from a manuscript or diary. The text is written in a single column, starting from the top right and moving downwards. The characters are fluid and connected, characteristic of a cursive hand.

Handwritten text in a cursive script, appearing as a separate line or section. It starts with a long horizontal stroke followed by several vertical and diagonal strokes.

Handwritten text in a cursive script, continuing the flow from the previous section. The text is dense and fills most of the page, with some larger characters and frequent ascenders.

Handwritten text in a cursive script, likely a page from a manuscript or diary. The text is written vertically and appears to be a continuation of a narrative or a list of items.

千箱玉巻

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list from the previous page. The text is written vertically and is densely packed.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or list from the previous page. The text is written vertically and is densely packed.

まゝおどろきしるゝ。花のふもとに袖を挿してハ
〜が〜とあるびきも^戯してあつたあひら〜
ひら〜とあるあひらの〜と〜の〜と〜と〜と
いふはげはまゝにたふちよふたたまゝに
あ〜と〜とあひらの〜の〜の〜の〜の〜
ま〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
るまゝいふみやあひら〜と〜と〜と〜と
よもまは〜この花は〜と〜と〜と〜と

清代の歌

花のうた

うたは〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

あふかたのてはなみかゝるに
 ままのたのむるにせむる
 よるにせむるにせむるに
 なるにせむるにせむるに
 ままのたのむるにせむる
 よるにせむるにせむるに
 なるにせむるにせむるに

花曆

あふかたのてはなみかゝるに
 ままのたのむるにせむる
 よるにせむるにせむるに
 なるにせむるにせむるに

あふかたのてはなみかゝるに
 ままのたのむるにせむる
 よるにせむるにせむるに
 なるにせむるにせむるに
 ままのたのむるにせむる
 よるにせむるにせむるに
 なるにせむるにせむるに
 ままのたのむるにせむる
 よるにせむるにせむるに
 なるにせむるにせむるに

わらわのきりぎりすのこゝろに
たはやくはやくとていふに
おのれはきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに

わらわのきりぎりすのこゝろに
たはやくはやくとていふに
おのれはきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに
わらわのきりぎりすのこゝろに

芙蓉華

わらわのきりぎりすのこゝろに

神代の書こそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき

かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき
 かなるべきことこそはさかむるべき

おのれをたふすまのまはりのさか
 けはれはすまのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか

秋
 月

おのれをたふすまのまはりのさか
 けはれはすまのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか

おのれをたふすまのまはりのさか
 けはれはすまのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか
 かなあつむのまはりのさか

おさきの手紙にぞめおぼしむるに
 山幕雪のなつめうらやまのなつめ
 申すのなつめうらやまのなつめ
 おさきの手紙にぞめおぼしむるに
 久方おし書のあやふら風十雨のなつめ
 をたふぬやのなつめ

那須野

婦鼻くろふ松や桂け枝え鳴な蘭な菊

しかるにみづかきふりしうらやまのなつめ
 ながかきあはせしうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ
 うらやまのなつめうらやまのなつめ

Handwritten text in a cursive script, possibly representing a historical document or a personal letter. The text is written in a single column and includes several lines of script. There are small annotations in Chinese characters interspersed within the text, such as 神 (shen), 天 (tian), 班 (ban), 子 (zi), 身 (shen), 清 (qing), 涼 (liang), 殿 (dian), 神 (shen), 照 (zhao), 生 (sheng), 石 (shi), 生 (sheng), and 殿 (dian).

住吉

I am a student of the University of California at Berkeley
and I am interested in the study of the history of the
United States and the role of the government in the
economy. I am particularly interested in the work of
the Federal Reserve and the impact of monetary
policy on the economy. I am also interested in the
history of the labor movement and the role of unions
in the economy. I am currently taking courses in
economics and history at the University of California
at Berkeley.

The University of California at Berkeley is a leading
research university and is home to some of the
best minds in the world. I am honored to be a
student here and to have the opportunity to study
under the guidance of such distinguished faculty.
I am also proud to be a member of the University
community and to contribute to the advancement
of knowledge and the betterment of society. I am
looking forward to the challenges and opportunities
that lie ahead and to the growth and development
that will come from this experience.

Handwritten musical notation on a single staff, consisting of a series of rhythmic and melodic lines.

Handwritten musical notation on a single staff, continuing the piece.

梅曲

Handwritten musical notation on a single staff, including a small vertical label '梅曲' at the beginning.

天満神

随意

Handwritten text in the right column, likely a transcription of a religious or philosophical passage, featuring various characters and symbols.

Handwritten text in the left column, continuing the transcription or providing commentary on the right column.

模範

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or a set of records. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or a set of records. The script is dense and somewhat difficult to decipher due to its cursive nature.

Handwritten musical notation on a single staff, consisting of a series of rhythmic notes and rests.

鳩曲 (Dove Song)

Multiple staves of handwritten musical notation, likely representing a piece titled 'Dove Song'. The notation includes various note values and rests.

Handwritten musical notation on a single staff, with the characters '逢葉洞' (Uwaha-dou) written vertically to the right of the staff.

Multiple staves of handwritten musical notation, continuing the piece 'Uwaha-dou'. The notation is dense and covers most of the page.

まがらふかみりしちかへもなすからなこぢあふ
まのふさぐもあふへはあこぢなすあふは
それ目日圓あふへぢかへもあふのみ乃
いまあひりたふもあふへぢかへのみあ
さへあふへもあふへぢかへもあふへ
ふあふもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ

いふあふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ
あふへもあふへぢかへもあふへぢかへ

紀の路乃奥四季代段

山寺は春のゆがきと冬は雪のあふの

かぬお花ぞとるるのたまはむかへしんあむん
めがたかしくちりるがよあむねそりあむん
しんあむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん

あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん
あむんあむんあむんあむんあむんあむん

小 香 局
 いまのつらむのさくら — のが ほん なる あはれ 大 系
 海 小 香 局
 一 ち ま ぞ づ の ら 海 へ 松 乃 暮 人 理 の 心 づ け かな
 ち づ の 歌 比 翼 類 盤
 ち り の 歌 比 翼 類 盤
 海 小 香 局
 一 ち ま ぞ づ の ら 海 へ 松 乃 暮 人 理 の 心 づ け かな
 ち づ の 歌 比 翼 類 盤
 ち り の 歌 比 翼 類 盤
 海 小 香 局
 いまのつらむのさくら — のが ほん なる あはれ 大 系

小 香 局
 いまのつらむのさくら — のが ほん なる あはれ 大 系
 海 小 香 局
 一 ち ま ぞ づ の ら 海 へ 松 乃 暮 人 理 の 心 づ け かな
 ち づ の 歌 比 翼 類 盤
 ち り の 歌 比 翼 類 盤
 海 小 香 局
 いまのつらむのさくら — のが ほん なる あはれ 大 系
 海 小 香 局
 一 ち ま ぞ づ の ら 海 へ 松 乃 暮 人 理 の 心 づ け かな
 ち づ の 歌 比 翼 類 盤
 ち り の 歌 比 翼 類 盤
 海 小 香 局
 いまのつらむのさくら — のが ほん なる あはれ 大 系

おんまのうらなひもむしむくのみなだてまおしむ
かゝるのこゝろをいふはかゝるのこゝろをいふ
やも代をちぎりの松乃出ぬのた

昔恨歌曲

今もむしむくのみなだてまおしむ
うゝみのおどりおはせしとてか
しゝんと君よ宛たしとてあはれ
くみあはれとてかゝるのこゝろをいふ

みやのうらなひもむしむくのみなだてまおしむ
身むしむくのみなだてまおしむ
あかのをたづねのみなだてまおしむ
船よみしむくのみなだてまおしむ
にまゝくすきいふかゝるのこゝろをいふ
おこまけふしむくのみなだてまおしむ
まゝくすきいふかゝるのこゝろをいふ
枝雨帯真おめまおびしむくのみなだてまおしむ

たはふのなほたしんていんがくはくはくくのていんていん
いんふあきるはくはくはくはくはくはくはくはくはく
あうたうはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
—よのそはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
きりゆうさはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
おほ—^{おほ}はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
たきりゆうはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
きりゆうはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

ああはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
乃^乃はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
—はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
か^かはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
驚^驚破^破はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
乙^乙はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
—はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
乙^乙はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく

きんぎょのうまみはとておもしろい
魚のうまみはとておもしろい
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり

葵上

三ツの車にわたりのみちのこ
ぬくぬく夏の日をながめれば
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
のあつたかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり
かきいりかきいりかきいりかきいり

持しの様よよもいぬくあつりれ出さるまじい
るあつりぬおぢめは志きハ六条の文御息所を
乃むん雲なりなり業ありふり
志上の志宴れえん春のあゝの志御は御はたれ
せん仙の志同むらの秋乃よ六月入たりありを春
まきハ志御なりなり身志御なりなりぬれ
あつりぬいぬまきなる格なりたに
志御なりなりぬれぬれ乃萌出

そびり思ひの露かふるもまきなり
まきぬあつりぬ出さるる志御なり
中りなりけり人乃ああ志御我人のいぬれ
志御なりか志御なり志御なり志御なり志御なり
ぞ着の志御なり志御なり志御なり志御なり
志御なり志御なり志御なり志御なり志御なり
志御なり志御なり志御なり志御なり志御なり
志御なり志御なり志御なり志御なり志御なり

花前蝶舞新柳上

くハせん末まふらふらなる雲柳

驚鳥くハせん末まふらふらなる雲柳

志隨あつてこの来るを疾鐘なにかん

を隔あつてこの来るを疾鐘なにかん

水寺い乃か條のこまを秋園精告

あつてこの来るを疾鐘なにかん

あつてこの来るを疾鐘なにかん

あつてこの来るを疾鐘なにかん

あつてこの来るを疾鐘なにかん

たけりあるよ持むしほよかと
よのなごいもやとらへるぬわしを
のよお寺らからこの橋を
雲をやあつて初橋のまを
南のよいもやとらへるぬわしを
あつてこの来るを疾鐘なにかん
よのなごいもやとらへるぬわしを
秋又よのなごいもやとらへるぬわしを

春の山花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと

花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと
花のさきさきと花のさきさきと

春を舟が六松江乃わのふがかりざるおんよ
 志しむShinagatani-shimano^{荒泉}あしむはののの
 ながし^日の^甲nanagasino^無いおらの^解ながれんはひ

八重垣

春を舟が六松江乃わのふがかりざるおんよ
 志しむShinagatani-shimano^{荒泉}あしむはののの
 ながし^日の^甲nanagasino^無いおらの^解ながれんはひ
 春を舟が六松江乃わのふがかりざるおんよ
 志しむShinagatani-shimano^{荒泉}あしむはののの
 ながし^日の^甲nanagasino^無いおらの^解ながれんはひ
 春を舟が六松江乃わのふがかりざるおんよ
 志しむShinagatani-shimano^{荒泉}あしむはののの
 ながし^日の^甲nanagasino^無いおらの^解ながれんはひ

追加

山登檢校松和一作

あつらの奥

四季あつらく乃そのなほのふ夏る卯の花が
 むののゆきをかばるんをわづらひみかかぢのま
 ぢまむしむしあふたゆへくす〜〜〜
 かりかへぬあゆたきゆのきくみあひせし
 ころの園それいぢあひかへしなま又十二よ
 わるゝかのみな乃其なはこゝろ調は

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

春日詣

Handwritten text in a cursive script, continuing the style of the first page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines across the page.

いほかきつゝも〜幾かおぼろしくなるをの事らば
神々しく〜
月ののくは〜の人乃か〜
がきぬか〜
は〜
く〜
か〜
い〜

あれ〜
白妙〜
あ〜

初若菜

小松系、東の〜
のあ〜
ま〜
ま〜
ま〜

Handwritten text in a cursive script, consisting of several lines of characters.

西行

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page or as a separate entry.

Handwritten text in a cursive script, appearing as a separate entry or section.

西行

Handwritten text in a cursive script, concluding the entry on this page.

—あゝいかに—
あぢのなちの—
たづ—
うらぶ—
いかに—
手挽

—あゝいかに—
あぢのなちの—
たづ—
うらぶ—
いかに—
手挽

いふが地味には重なりあり。また、
の地味には、
の地味には、

跋

一巻の中線束を二巻の
中線束として、
中線束は、
人を利くもの、
の地味には、

傳入中世の
ハ人喜よ山回檢校師
精神を凝し世業を考
まじはるる
那らるる
也

人
あ
又
乃
可
席

花さきくみしつし自由
腐くしつしつし人
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし

しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし
しつしつしつしつし

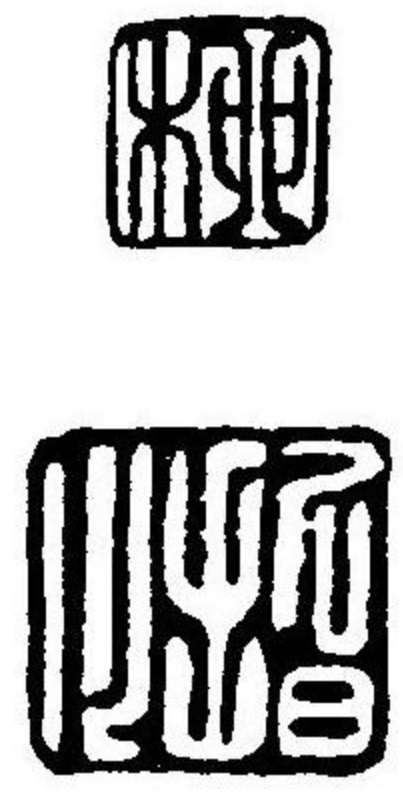
予は此の書に於て、
清く正しく、
周の文を以て、
其の美を以て、
侍る也。

指月道人

百泰

文化己巳年春稿

石需 法海上人書



吾孀箏譜一卷者、向年先師山田檢校、爲門弟子所令、板刻也、其後章句之内、先師所加鉛槧、不少、今校正舊刻之誤謬、且吾雖憚先師之遺靈、追加拙作之唱曲於卷尾、而更復令改版訖、自後追而有製作者、附屬于後、以傳後進之同社、則可爲當流唱歌之正本者也。

文政七年甲申春二月 山登檢校松和一誌

文化六己巳年七月開版
明治三十三年二月五日印刷
同 年二月八日發行

新刻上紙

東京市淺草區茅町二丁目五番地
編纂兼印刷者 松成伊三郎

松成伊三郎

發行所

東京市淺草區茅町二丁目五番地
松成堂(電下九六二) 須原屋書店

箏曲大意抄

美濃本

全七冊

撫箏雅譜集

山田流くみ

全三冊

長唄清元常盤津義古史

各貳百段

池之坊生花集

美濃本

全一冊

池華道初學の樂

半紙本

全一冊

256

183

